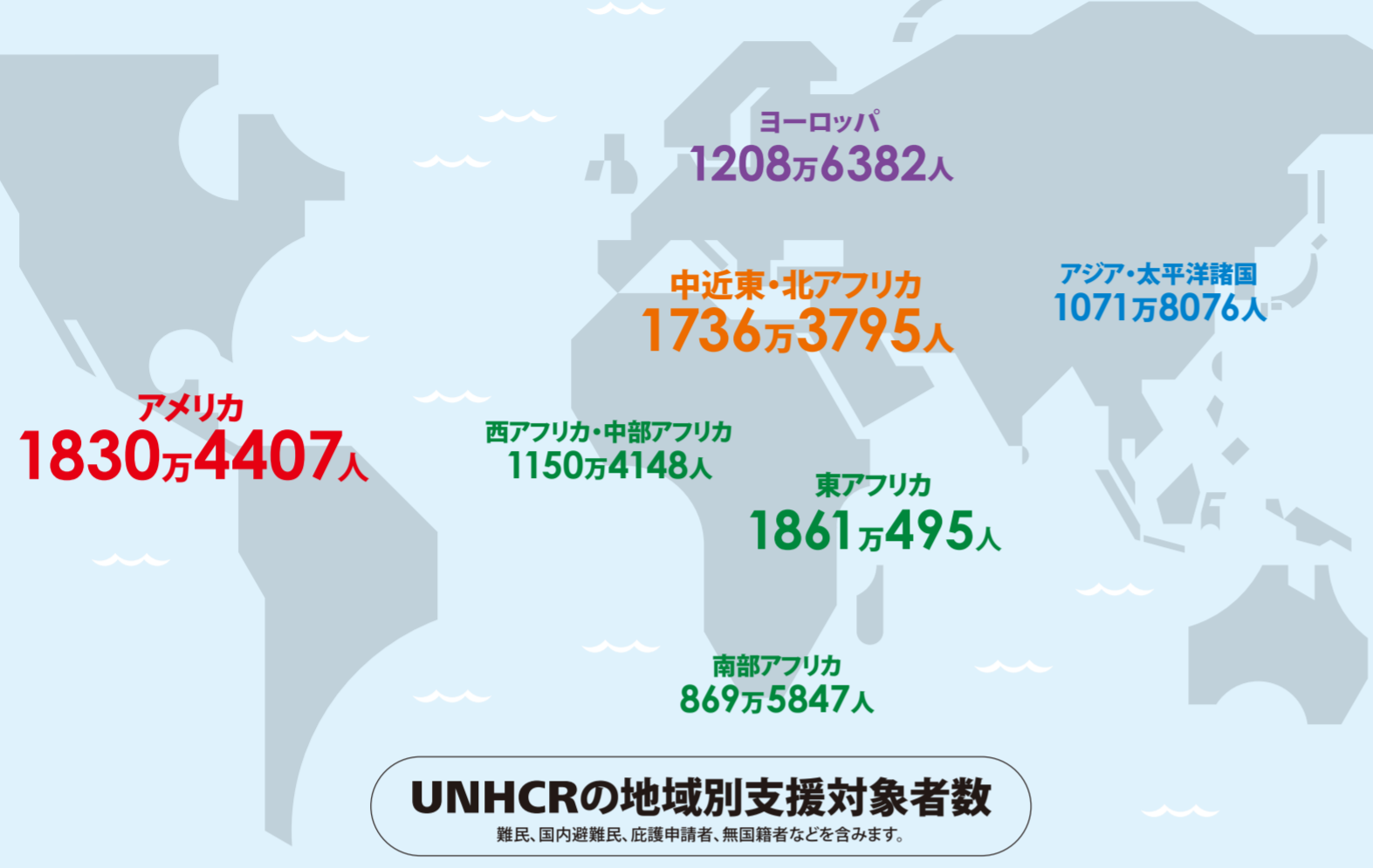


UNHCRの難民援助活動2021

～UNHCR年次報告書「グローバル・アピール2021」（2020年11月発表）より～

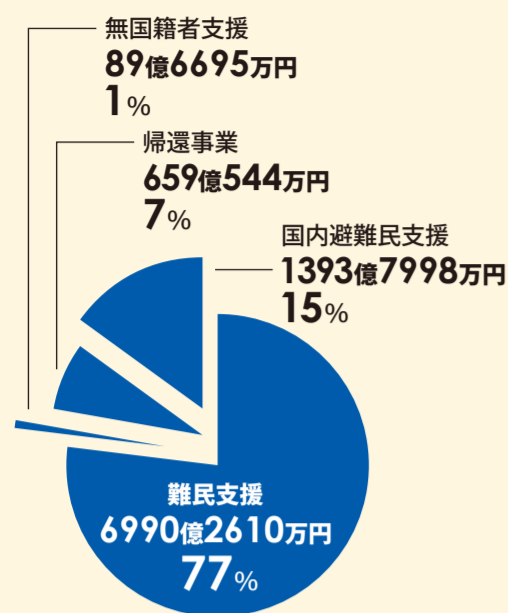
年初にあたり、UNHCRの公式文書『グローバル・アピール2021』より2021年のUNHCRの難民援助活動計画についてお伝えします。



UNHCRの地域別支援対象者数

難民、国内避難民、庇護申請者、無国籍者などを含みます。

全世界の支援対象者数 — 約9728万3150人
必要総予算 — 9132億7847万円



2021年も厳しい資金不足が予測されます

支援対象者の大幅増加を受けてより多くの活動資金が必要とされる中、2020年は活動資金の調達率は49%程度と見込まれています。

2020年度必要総予算 — 9678億8600万円
2020年度調達見込み — 4697億6400万円

2020年度 調達率 49%

(2020年10月時点 / 1米ドル=106円換算)

出典: <https://reporting.unhcr.org/financial>

活動国 — 130か国

事務所 — 540か所

職員 — 1万3131名

2020年10月時点

出典: Global Appeal 2021 UPDATE (2020年11月発表) P10-12

アメリカ

新型コロナウイルス感染症の流行が続き、南北アメリカ全域でさらに困窮者の増加が予想される中、UNHCRは食料、衛生物資、シェルターの提供など多角的な援助を展開する予定です。

ベネズエラでは、現在は国境封鎖で国外に逃れる人の動きが沈静化していますが、今後封鎖が解かれれば再び避難民が流出することは必至。

ニカラグアでも大統領選挙の実施に伴う治安悪化が危惧されています。このような流動的状況にも、柔軟に対応していきます。

2020年6月、ベネズエラからコロンビアに避難してきたパチェコさん一家。コロンビアには難民キャンプはありませんが、一時受け入れセンターで最長1か月滞在することができます。



UNHCR / Photos Report

西アフリカ・中部アフリカ

安全な住処を求めて今年中に200万人が移動すると見込まれているサヘル地方の国々、そしてナイジェリアやカメルーンを含むチャド湖流域では、政情不安や気候変動に起因する多数の人道危機が起きています。

新型コロナウイルス感染症の流行と治安の悪化で活動が制限される中でも、UNHCRは緊急事態に対応できる体制を整えるなどして、人命を守る援助を展開。多少安定が見られる中央アフリカ共和国では帰還事業を進める予定です。



ブルキナファソの難民キャンプにある学校で学ぶマリ難民の生徒たち

UNHCR / Photos Report

南部アフリカ

実に90か国以上から庇護を求める人々が流入している南部アフリカでは、難民の審査や登録作業が追い付いていないのが現状。UNHCRは各国の対応をサポートしながら、援助活動を行なっています。

南部アフリカの支援対象者の88%以上はコンゴ民主共和国出身ですが、ほかにもモザンビーク北東部の治安悪化に伴う避難民の保護にも取り組み、アンゴラやルワンダからの難民、避難先での定住、もしくは帰還の事業にも注力します。



「石鹸作りを始めてから生活が好転しました」と語るアルベルト・マーズさん(40歳)。中央アフリカ共和国からコンゴ民主共和国へ避難していますが、現在は石鹸作りで生計を立てています。

UNHCR / Photos Report

ヨーロッパ

ヨーロッパでは引き続き、地中海及びカリナリア諸島を経由して渡欧する難民の受け入れ態勢の改善が、喫緊の課題のひとつ。関係諸国に、公正で効率的な庇護申請システムの確立などを訴えると同時に、すでにヨーロッパ各地で暮らす庇護申請者への情報発信も行なっています。

他方で、世界最多数の難民を受け入れているトルコでは、新型コロナウイルス感染症の流行で経済事情が悪化。難民を取り巻く環境が厳しくなる中、援助の拡充にあたります。



2020年9月、ギリシャ・レスボス島モリアの受け入れ施設での火災によって焼け出されたアフガニスタンからの避難民の母子。この火災で約1万2000人の避難民が住居を失ったため、UNHCRは屋根のある場所で眠れるよう緊急で支援を行い、現在も中長期対策を検討しています。

UNHCR / Photos Report

中近東・北アフリカ

中近東と北アフリカで暮らす難民と国内避難民は、新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、従来以上の試練に直面。UNHCRは、世界最多の支援対象者を数えるシリアでは引き続き広範囲にわたる援助活動を行ない、イラクでは人道的支援から開発計画への移行を目指すなど、国ごとに異なるニーズに対応していきます。

紛争と経済不安と自然災害が重なったイエメンの状況は深刻で、UNHCRがより大きな役割を果たす必要があります。



シリア、アレppo、UNHCRとパートナー団体が運営するコミュニティセンターでいじめの啓発ワークショップに参加する帰還民の子ども達。

UNHCR / Photos Report

東アフリカ

アフリカ大陸で最多の難民を受け入れているこの地域では、紛争解決の遅れや自然災害によって、今年も国内外に避難する人々が増える可能性があります。

UNHCRは彼らが庇護を求める権利を保障し、確実に援助するために様々な対策を打ち出すと共に、現金給付の拡充による自立支援、自発的な帰還のサポートを行なっています。人口過密な難民キャンプでの新型コロナウイルス感染症対策も、引き続き最優先課題のひとつです。



「大なたで襲われ、村でたくさんの方が殺されました」と語るアリスさん(29歳)。身重の体で2人の子どもを連れて必死にコンゴ民主共和国からウガンダまで避難してきました。夫と両親は行方不明です。

UNHCR / Photos Report

アジア・太平洋諸国

今年もUNHCRが重点的に取り組むのは、アフガニスタンとミャンマーのロヒンギャ難民という、ふたつの大きな問題。自発的な帰還をサポートする一方で、バキスタン、イラン、バングラデシュといった受け入れ国の負担軽減にも注力します。

各国の新型コロナウイルス感染症対策を補いながら、難民に教育の機会や生計を立てる手段を提供し、医療を始めとするサービスへのアクセスを確保。助けを必要としている人のもとに、確実に援助を届けます。



バングラデシュのクトパロン難民キャンプ。援助で設置されたソーラーパネルによる太陽光発電の光のもと、洋服を仕立てるロヒンギャ難民のアーミール・カーンさん(65歳)。

UNHCR / Photos Report

皆様のご支援はUNHCRを通して難民に届いています

～UNHCR年次報告書「グローバル・レポート2019」（2020年6月発表）より～

2019年のUNHCRの援助活動の成果の一部を数字でご紹介します



2019年春 イエメンの国内避難民に緊急援助物資を届けるUNHCR職員

緊急援助出動回数 269回

緊急事態発生から72時間以内に最大60万人に援助を届けられる態勢を常に準備し、1年間で269回出動、31億8000万円*相当の緊急援助物資を23か国の難民のもとに届けました。
※1米ドル=106円換算

小学校に通うことができた難民の子ども達 113万6002人

UNHCRは各国政府の協力を得て、難民の子ども達の教育の機会の拡充を図り、2019年の1年間に113万6002人が学校に通いました。これを受けて小学校の就学率は63%になりました。一方、中学・高校の就学率は24%となっています。

国籍を取得できた無国籍者 8万1074人

無国籍状態に置かれていた人の国籍取得を援助しました。国籍が初めて仕事・教育・医療など、生活に必要な基本的権利を享受することができるようになります。

2019年末までにUNHCRが生体認証で難民登録した人数 880万人

生体認証は個人の特定に役立つだけでなく、証明書を無くしたり盗まれたりするリスクが無いため、現在UNHCRの難民認定の方法の核となっています。

安全な水・衛生環境の提供 810万人

約810万人に対し、安全な水・衛生環境の提供を行ないました。また、コストを削減し環境への負担を軽減するためのテクノロジーに投資すると共に、難民キャンプに最新のメーターを設置して水・衛生関連のデータを収集。支援状況の改善に役立てています。

現金給付支援を行なっている国の数 54か国

計54か国で生活する人々に現金給付支援を実施しました。中でも難民の自立支援に活用された現金給付支援の額は前年から4倍に増えました。現金給付支援においては、難民が命をつなぐための必要最小限の金額が支給され、難民自身がニーズの状況に準じてお金を使うことができます。支給方法も電子化が進み、どこで暮らしていても援助を受けやすいことも現金給付支援の強みです。

ハウジングユニットで生活する難民の数 21万9000人

UNHCRは環境に準じて多様なシェルターを用意しています。中でも軽量スチールなどで作られたハウジングユニットは耐久性に優れ、様々な天候に対応する仮設住宅。2019年には21万9000人がハウジングユニットで暮らせるようになりました。

※2020年の数字は2021年6月に発表予定

様々な数字で知る「難民・避難民」

～UNHCR年次報告書「グローバル・トレンドズ2019」（2020年6月発表）より～

主な出身国

※この5か国で全体の68%

シリア 660万人

ベネズエラ 370万人

アフガニスタン 270万人

南スーダン 220万人

ミャンマー 110万人

紛争や迫害により家を追われた人のうち18歳未満の子どもの割合

40%

隣国に避難している割合

73%

発展途上国に避難している割合

85%

出身国・出身地に帰還した避難民

560万人

受け入れ国

※6年連続でトルコが最多数を受け入れ

トルコ 360万人

コロンビア 180万人

バキスタン 140万人

ウガンダ 140万人

ドイツ 110万人

第三国定住が許可された数

10万7800人

第三国定住：祖国に戻ることも避難先の国に定住することもできない難民を別の国(第三国)が受け入れるという解決策のひとつ。

※今回紹介した数値には難民とベネズエラからの避難民が含まれています。ベネズエラの避難民のステータスは正確には「難民」ではありませんが、家を追われたベネズエラからの避難民もUNHCRの支援対象となっています。
※2020年の数字は2021年6月に発表予定

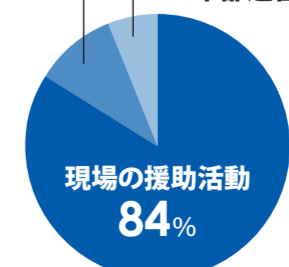
UNHCRへのご寄付の使い途

お預かりする寄付金はUNHCRが保護、シェルター支援、啓発活動など様々な援助活動を行う中で活用されています。

UNHCR職員はなるべく避難民や無国籍者の近くで活動を行っており、UNHCR職員の90%が援助活動の現場で働いています。

グローバル・プログラム 10%

本部運営 6%



- 保護
- シェルター
- 啓発活動
- その他 様々な援助活動

出典: <https://www.unhcr.org/frequently-asked-questions.html#howdoesunhcrspenddonation>
※より詳細なUNHCRの予算報告についてはUNHCR本部の公式サイト(www.unhcr.org)で公開されている年次報告書「Global Report 2019」(英文)をご覧ください。